

# Youぬーそーが？ (いま、なにしてる?) プロジェクト!

コロナ禍において孤独で不安な暮らしが続く中、地域密着型の多文化共生に向けて、コミュニケーションを大切にした「ゆんたくリサーチ(ヒアリング調査)」を実施しました。外国人・日本人問わず、市民から調査員ボランティアをつのり、研修を経た調査員が在住外国人の小さなつぶやきをはじめ、悩みや想いを聞き取りました。

住民参加型コミュニケーション研修



## 住民参加型 コミュニケーション研修

講師：吉田知津子  
ファシリテーター：大仲るみ子

### タノシクわかる! 広報講座

2020年12月19日なは市民活動支援センター  
20日名護中央公民館

調査員を対象に、ヒアリング調査へとつないでいくための広報講座を実施しました。「誰かとともに」という共創の視点を大切に、コロナ禍における、多文化共生を広めるための「新しい広報」を一緒に探りました。



持ち物紹介を取り入れた自己紹介をしているようす。モノをきっかけに相手の人柄や思いを知り、距離を縮めることができました。



チラシを作成するワークショップでは、「好きな場所とその時間」についてのヒアリングを通して、すくい上げた相手の言葉を形にしました。

#### 参加者の声 ※感想シートより抜粋

- ・人の話を聞くことって楽しい。聞いてもらうことも楽しい! 調査では自分が知らないことを聞けるのが楽しみ。
- ・「ヒアリング調査」という手法が、多文化共生を地域で広める一番早い広報だと知った。

### 研修&オリエンテーション

2021年1月16日なは市民活動支援センター

オリジナルの質問を作成し、調査員同士で「聞き方」や「答えの深掘り」を練習しました。本番同様にZoomを使った実践では、音響環境や話し出すタイミングの難しさ、オンラインのタイムラグなどを実感することができました。



地図やイラスト、文字、ジェスチャーを使ってヒアリングの練習をしているようす。ゆっくり、大きな声で、「やさしい日本語」もとりました。



Zoomを使った実践では、対面とは違った難しさを実感することができました。声のトーンや相づち、反応の大切さに気付くことができました。



# ゆんたくリサーチ (ヒアリング調査)で聞こえてきた声

## ゆんたくリサーチ(ヒアリング調査)って?

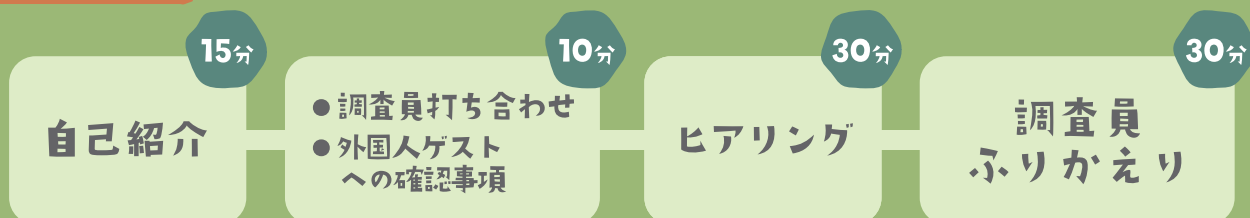
一方的な質問形式ではなく、会話のキャッチボールの中でお互いを知りながら、時に自分と重ね合わせて相手の想いを聞き取る「ヒアリング調査」の手法です。今回の調査では、調査員自身が自らの状況や気持ちを話し、その上で「あなたはどうですか?」と問いを投げかけ、答えを丁寧に深掘りするよう心がけました。誰もが初めてのゆんたくリサーチは「困った!」の連続でしたが、毎回改善を加えながら、「みんなで困って、みんなでつくりあげた」調査となりました。

調査対象：県内在住外国人33名(21の国と地域)

調査期間：2021年1月25日～2月28日(計8回実施)

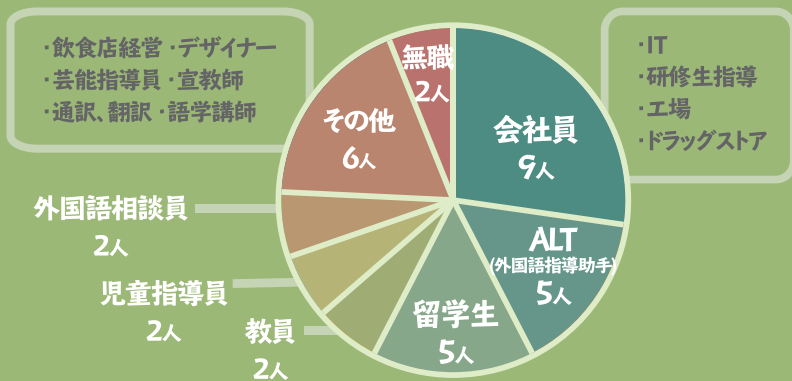
調査方法：Zoom(オンライン会議アプリケーション)を使用し、約30分のヒアリングを実施。市民から募った23名の調査員ボランティアが2人1組になって、1名の外国人ゲストにヒアリングを実施しました。

### 調査のながれ

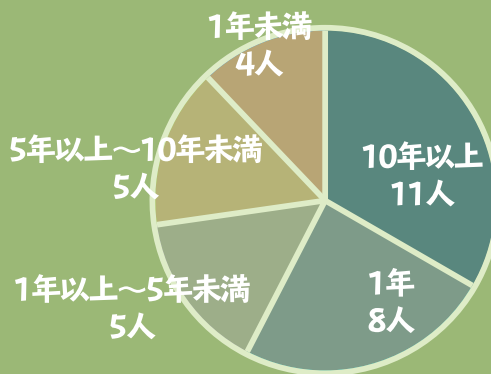


※外国人ゲスト…調査対象となる在住外国人です。

### 回答者の職業

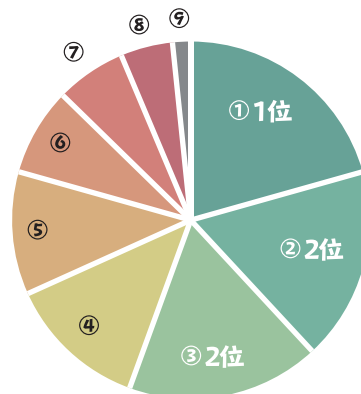


### 回答者の沖縄在住歴



### Q コロナ禍で困ったことや、大変なことはなんですか?

|                  |     |          |    |
|------------------|-----|----------|----|
| ① 仕事のこと          | 13件 | ⑥ 子育て、教育 | 5件 |
| ② 人と会えない、外出ができない | 11件 | ⑦ とくになし  | 4件 |
| ③ 帰省や帰国ができない     | 11件 | ⑧ 行政サービス | 3件 |
| ④ 感染がこわい         | 8件  | ⑨ その他    | 1件 |
| ⑤ 情報が得られない       | 7件  |          |    |



## 1. 仕事のこと

- ・アルバイトで以前は週28時間(1日約5.5時間)働いていたが、コロナの影響で日数が減り、一日3時間しか働けなくなりました。母国に頼るわけにもいかず、生活に不安がある。(留学生)
- ・アルバイトをくびになった。新しいアルバイトも時間が減った。(留学生)
- ・ALT(小学校の英語の先生、時給の仕事)の仕事をしているので、小学校が休校になったときは収入が減って大変だった。小さい子供がいるため、妻と一緒に新しいバイトをはじめた。(ALT)
- ・翻訳の仕事が激減して不安だった。(翻訳・通訳)
- ・新しいお店だから、補助金の申請ができなくて大変だった。結局今も申請はできていない。(飲食店経営)
- ・就職活動中に50社近く応募したが、コロナ禍で採用が少なかったのか、面接は2社しか出来ず不安だった。(会社員)

## 2. 人と会えない、外出ができない

- ・日本語が上手になりたいし、日本人と友達になりたいのに自粛で友達作りができなかった。
- ・沖縄に来てから緊急事態宣言などもあり、友達と会えない期間があって辛かった。友人も少なく、家にいるのが辛かった。
- ・コロナはもう終わってほしい。仕事がシフト制なので休日のイベントとタイミングがあわないことが多い。飲食店が時短営業しているから、仕事終わりに友人や職場の先輩などと食事することも難しくなった。

## 3. 帰省や帰国ができない

- ・半年後には帰国する予定だったが、母国の空港は今も閉鎖されている。だから、帰国したくても出来ない。
- ・以前まではLCCを利用して3~4ヶ月に1回は帰省していたが、1年以上帰っていないので辛い。家族とはテレビ電話で頻繁に連絡をとっている。
- ・年2回は家族に会いに母国へ帰っていたが、今年はコロナの影響で帰国できないのが寂しい。
- ・コロナ感染が世界中でピークを迎えたころ、母国に住んでいる父が病気になった。すべてがロックダウンされ、会いに行けなかったことがとても心苦しかった。

## 4. 感染がこわい

- ・母国では自分がかもコロナに感染したり病気になるっても、市民だから気軽に病院に行けるけど、沖縄では自分は外国人だからどうすればよいかわからない。健康面で心配なときに外国人でも相談できるところや、病院の情報が得られるところがあると助かる。
- ・沖縄に来ている留学生がコロナ禍の中、どう過ごしているのかとても心配だった。ご飯をちゃんと食べているかどうか、困っていることはないかとか。主人と一緒に留学生にお弁当を届けに行ったりもしていた。

## 5. 情報が得られない

- ・コロナに関する情報がなかなか得られなくて困った。日本語の情報はたくさんあるのに、せめて英語でも良いから情報が欲しかった。どこでマスクが手に入るとか医療に関する情報とかがわからなくて不安だった。
- ・日本語が読めないことで、なかなか情報が理解できなかった。こういう時に頼れる日本人がいれば良いなと思った。妻に日本人の友達もいるけど、自分の家族で精一杯になっていてなかなか頼れなかった。
- ・多言語での情報が少なく、精神的に不安だった。PCR検査の英語の証明書が出せる機関が分からない。

## 6. 子育て、教育

- ・学校からのお知らせは日本語ばかりで困ったが、勤務先の学校で同僚の先生や仲間に教えてもらうことが出来て助かった。子ども達の面倒を見てもらうために母国から両親を呼び寄せようとしたが、コロナ禍のため実現しなかった。
- ・一番困ったのは子供のこと。急に休校が決まり、子供の勉強が遅れるんじゃないかととても不安だった。休校が長引き、学業や子供たちの生活リズムの乱れなどの影響があった。

## 7. とくになし

- ・母国にいる時の方が状況も厳しく、その時に比べると特に苦にならない。今は好きに外出もできるし、自分で買い物もできる。
- ・日本はいつでも出かけることができるからラッキーだと思う。母国では、時間帯によっては完全に外出禁止にされている時間もある。沖縄にいて、コロナ禍でも友達と会える時間があるのは嬉しい。

## 8. 行政サービス

- ・コロナにかかった時、電話でのやり取りが大変だった保健所や病院からの電話は英語が話せる人からもかけてくれて助かったが、英語の電話と日本語の電話、それぞれでかかってくるけど、内容に一貫性がなく、情報がバラバラだった。
- ・同じ外国籍の友人は、コロナ関連の書類が届いたけれど、日本語が読めず困っていた。英文の記載等の補助があれば良いなと思った。
- ・医療機関の指示通りにPCR検査を受けたのに、その後請求書がきたり、保険証を提出してと言われた。検査は費用がかからないものだったし、保険証も提出した。その後電話で何度も説明するなど、たらい回しされた。外国人だからこんな理不尽な目に合うと思う。

### 調査員からひとこと

助けてくれる人の有無や友達の多さにかかわらず、すべての人が必要な時にかける場所や、気軽に利用できるサービスが保障されているべきだと思った。



全員で感想共有をしているようす



グループに分かれてヒアリングをしているようす

# ゆんたくリサーチ (ヒアリング調査)で聞こえてきた声

## Q 沖縄で生活をする上で、困ることや、大変なことはありますか？

### 行政サービス

- ・言葉が一番困った。会話は友達とたくさん話すことや自分で学んで大丈夫だけど、市役所や病院からの書類が読めないからわからない。税金関係もどう払うのかわからない。これらの書類関係や税金関係は日本人の友達に聞いている。
- ・沖縄ではわからないことがあると、家族に聞くしか方法がない。家族が分からなければ、あきらめるしかない。市役所には行ったこともないが、たぶん外国人のための窓口などはないと思う。自分で何か出来ないかと方法を探すが、情報を探しきれない。役所に行っても、「日本語をきちんと話してください」と取り合ってくれない。
- ・帰沖の際、空港で手続きに時間がかかった。沖縄に住んでいるのに、ほかの沖縄の人と同じような扱いを受けられないことに憤りを感じる。
- ・在留届の手続きのために市役所に行った時、通訳アシスタントのような外国人向けの補助員がいた。とても親切で大変助けてもらった。このようなサポートは安心できるし、良いと思う。

### 食事

- ・メニューやお店で売っている商品のパッケージが読めない、読みにくい、わかりにくい。自分はユダヤ教徒で食べられないものがあるため、食事で困ったことがある。私は日本語がまだ上手じゃないからコンビニなどで買い物する際に、商品のパッケージに書いてある原材料などが読めないことがある。以前、ハムが入っているサンドウィッチを食べかけたことがある。

### 家を借りるとき

- ・家を借りるのが大変で3~4ヶ月探していた。学生だったから仕事をしていなかった。そのことを大家が心配したのか、貸してくれなかった。結局、友人の紹介で今のアパートを借りることができた。大家とのやり取りで、相手の言っていることはわかったが、まだ上手に話せなかったので友達に通訳してもらった。

### 病院・保険

- ・以前、体調が悪かった時にどうすればよいかわからず最初は我慢していた。最終的に辛すぎて友達に相談し、病院に行った結果、肝臓から石が見つかった。健康面で心配なときに外国人でも相談できるところや、病院の情報が得られるところがあると助かる。
- ・友人で保険に入っていない人がいる。

### 公共交通機関

- ・最近ライカムに初めて行った。バスを利用したが、最初はどのように支払いするのか分からず困った。
- ・山とかピクニックに行ってみたい。でも車がないからなかなかいけない。

### 防災

- ・地震や津波などの災害の時にはどうしたらいいかわからないから、もしそうなった時にどうしたらいいかを学びたい。

**調査員からひとこと** 直接的な壁は「ことばの壁」だと思いました。しかし、その壁を支えているのは「こころの壁」なのかもしれません。「身近なところに日本語がわからない人が住んでいる(かもしれない)」という視点が欠けているために、多言語化ややさしい日本語といった配慮に至らないのかもしれません。

## Q 仕事について、教えてください

### やりたい仕事につけない

- ・少し前まで日本語を勉強していたので、最近になって仕事を探している。でも難しい。自分のやりたい仕事がない。通訳や大使館で働くのが希望だけど、友人からは難しいと言われていて。単純に仕事自体が少ないし、ホテルやレストランの仕事には興味を持ってない。
- ・これまでは教師やデイサービスの仕事をしてきた。ソーシャルワーカーで働いていた経験もあって、その経験を活かしたいけど沖縄ではなかなか難しい。普段疑問に思ったことや専門的なことを周りに聞いても、「わからない」という回答しか返ってこない。

### 職場環境

- ・仕事量が多いなと感じることがある。母国では3人で分担してやる仕事を日本では1人の人が抱えている。例えば、ダイビング指導、機材運搬、ガイド、運転手は母国ではそれぞれ1人だが、日本では全部を1人にさせている。
- ・バイト先の人は、「これはなんですか?わかりません。どういう意味ですか?」と聞くとわかりやすく、やさしく教えてくれます。上司はいい人です。
- ・休みの日は職場の船でダイビングやホエールウォッチングに出かけている。

## Q どうしてそんなにがんばれるんですか? (調査員オリジナル質問)

学業と仕事で大変なときもあるけど、自分と家族のことを想って頑張っている。朝5時から8時まで工場 でアルバイト、45分後には日本語学校に行く。短い時間で準備。学校はお昼まで。そのあとはヘトヘトで友だちとリラックスタイム。大変な生活だけど自分と自分のかぞくのためにがんばれる。(ネパール・留学生)

## Q 子育てや教育について、教えてください

### さみしい

・家庭育児中は夫の両親と協力して育児をしていました。友達も夫の友達くらいしかなくてさみしかったです。私の職場の相談窓口にくるママさんたちはとても困っています。日本語はママさんの母語ではないので、子育てに苦勞しているママさんや、友達がいてさみしいママさんがたくさんいます。

### 必要な情報がわからない

・子どもが病気になったとき、病院から出された薬の飲み方をまちがえたことがある。学童の申し込みのときも、提出締め切りなど重要な情報が分からなくて、提出を1日遅れてしまって受け入れ拒否されそうになった。

### 学校について

・コロナの影響で、小学校の運動会などのイベントが中止になって残念だった。でも最近では ZOOM を使って演奏会をした。教員は新しいことを覚えてこなすことが大変だったと思うけど、楽しかった。

### 子どもの言語について

・自宅ではもっぱら英語で会話しているが、妻と子ども達は日本語で話している。私の出身地の言葉で子ども達に話しかけることもあるが、ヒアリングはできて話せない(話さない)。子ども達にはトリリンガルになってほしい。  
・子供を外国語教室に通わずには、お金・時間・送迎などの労力がかかる。学校のカリキュラムで英語以外の科目も入れてほしい。

## Q 子育てや教育について、教えてください

### 交流がない

・沖縄の祭りも好きだけど、全部日本語だからわからない。例えばそのチラシとかを英語で書いて、市役所に置いたりしたらいいんじゃないかな。  
・大綱挽きや、エイサー、ハーリーなどを見に行ったりしたことがある。興味はあるが、参加したことはない。三線にも興味あるけど、弾いたことはない。公民館やカルチャーセンターなどの情報がわからない。  
・たまに寮の仲間と互いの国の料理を持ち寄って交流会をしているけれど、地域の人とやったことはないです。

### 友達がほしい

・日本人の友だちがいないのがさみしい。職場の人達はフレンドリーでいいが、もっと気軽に遊べるような友達がほしい。どうやって友達を作ったらいいかわからない。  
・空手の道場では、昔はいろんな国の人がいたが、今は外国人は自分だけ。他は子供達ばかりで、大人は少ないのでなかなか友達ができない。仕事の繋がりで年配の方と会うことはあるが、英語ベースの会話なのでもう少し日本語を使う機会がほしい。  
・小禄に住んでいたころは同僚にインド人もいてよく一緒に遊んだ。今はみな東京に行ったりインドに帰ったりで、沖縄のインド人コミュニティとのつながりはない。沖縄市にもインド人がたくさん住んでいるのは知っているけれど。  
・友達はみんな軍の人で、日本人はいません。空手に興味があって、家の近くに道場があるけどまだ行ってません。

### 交流がある

・大学のときからの友だちも多く、よく遊ぶ大学時代の友達も(日本人も)たくさんおり、人間関係には困っていない。  
・若狭公民館で沖縄の人と交流する機会がある。(学校のネパールの先生が教えてくれた)  
・沖縄ネパール友好協会(ONFA)のイベントに参加している。  
・栄町のごちゃごちゃしているマーケットみたいな雰囲気が好き。近くにお気に入りの喫茶店があり、そのマスターと仲が良い。マスターは昔インドネシアに行ったことがあって、インドネシアのコーヒー豆についてもよくおしゃべりする。

### 外国人のこと、みんなはどう思ってるのかな

・ベトナム人が気軽に集まることのできる居場所がない。相談事やベトナムの祭りや行事を行うためには居場所がほしい。公民館などの公共施設は、鍵の開け閉めなどもあって利用しにくくなっている。大勢が集まるとうるさくなってしまうので、周りに迷惑をかけてしまうのが心配で集まりにくい。  
・外国人が地域に増えていることを沖縄の人はどう感じているのか。(文化の違いや、交流がないために、お互いの価値観の違いを理解できていないので、日本のマナーを守らない(知らない)外国人のことを不快に感じる人がいないか気にしている)ゴミの出し方が間違っているとか、パーティの音がうるさいとか、周りの人たちに迷惑をかけていないかどうか、心配だから聞いてみたい。

## 調査員からひとこと

- 私がインタビューをした方は日本人の友人もいて、コロナ禍でも楽しい毎日を送っているような印象を受けた。でも日本語での会話に関しては少し大変そうだった。外国人の彼らが興味のある分野を日本語で学べたり、外国人も ウェルカムなコミュニティがもっと増えれば、言葉の上達や言葉の壁もなくせるのではないかと感じた。
- 外国人を雇用している企業の中には、外国人と地域の関わりへの意識が薄いのかもしれない。企業への働きかけも必要かも。
- 大勢が集まればうるさくなるのは、外国人でも日本人でも当たり前のことだと思います。地域の一員として集まれるはずの公民館や地域の施設を、地元の人たちと同じように利用できないのは、一見するとせいで壁のように見えました。しかし、その背後には「外国人だから(地元の人とは違う)」というこころの壁や、「わかりあえるかどうか不安」ということばの壁もあるのかもしれません。

# ゆんたくリサーチ (ヒアリング調査)で聞こえてきた声

やってみたい!挑戦したい!

## 外国人をサポートしたい!(8人)

- ・那覇市内だけでも大勢の外国人がいる。家賃の補助とかあるといいなと思うし、先人として同じようなことで困っている人達の相談窓口としてお手伝いができればいいなと思う。
- ・職業技能実習生として来沖した同じ仲間へ沖縄の文化を伝えたい!
- ・留学生の生活・就職の相談に乗りたい。自分も困った経験があるので、苦労したことやこれまでの経験をシェアして手助けをしたい。
- ・役所とか書類の英語でのサポートや支援が必要だと思う。海外と日本では生活スタイルが全然違うので、日本のルールを知ることがとても大切。いずれは自分も困っている外国人を助けられたい。
- ・インフォメーションのサービスを何とかしたい!役所に行っても日本語ばかりで、外国人にとってはわからないことがたくさんある。日本語のインフォメーションをいろんな国の言語で作って困っている外国人を助けたい。



調査終了後、  
ふりかえりを  
しているようす

持ち物を使って  
自己紹介を  
しているようす



## 文化交流がしたい!(7人)

- ・日本人と一緒にネパール料理を作りたい。
- ・スカイプやZOOMを使って友達をつくらったり、言葉の交流ができる場を作っていきたい。
- ・コロナ前は色々な国から来ているALTの先生方と、母国の料理を紹介しあう交流会を行っていた。この活動を再開したい。
- ・日本人のマナーを教してほしい(ゴミ出し、近所付き合い、交通ルール、言葉遣いなど)それが、信用・コミュニケーションになり、情報交換や助け合いに繋がると思う。
- ・ただおしゃべりをして遊ぶだけの交流イベントじゃなくて、一緒に勉強できる何か(例えば、趣味のカメラを学べるサークルのようなもの)を沖縄の人と一緒にやってみたい。

## 母国のことを教えたい 紹介したい!(6人)

- ・数年前に瀬長島で台湾夜市のイベントがあった。そんなイベントがあったら、日本人の友達に台湾の料理や文化を紹介出来る。気軽に、異国の文化を経験できる機会が増えてほしい。
- ・スペイン語やアルゼンチン料理を教えたい。
- ・自分の国のことを紹介できたり、沖縄のことを知ることができたりする文化交流があるといいな。

## 沖縄・日本の文化を学びたい 体験したい!(9名)

- ・スーパーなどで沖縄の野菜をたくさんみかけるが、野菜の名前や料理法など興味があります。
- ・もって沖縄のいろんな場所や、食べ物にふれてみたい。文化、着物、食べ物いっぱいあるとききましたが、機会があれば教えてもらいたい。
- ・今年こそ沖縄のイベントに参加したい。特にエイサー。離島にも行ってみたい。お盆や宮廷料理なども体験したい。沖縄の人にいろいろ教えてもらいながら、いろんなところに行ってみたい。
- ・沖縄の特別なこと、沖縄の文化や生活、お祭りのことなどを沖縄の人から学びたい。基地のことが心配で問題になっていることも理解しているから沖縄の人からもっと学びたい。
- ・地域の伝統的な行事にも参加していきたい。
- ・シーサー作り、紅型体験、陶芸体験などをしたり、気になっているお店に行ったり、沖縄観光をしたりまだやったことないことをしたい。
- ・三線を習ってみたい。日本へ来る前から盆栽に興味があったので、盆栽も習ってみたい。



自宅にネット環境がない方や、Zoomの操作がわからない方には沖縄NGOセンターに来てもらったり、会議室を用意しました。

## 友達になりたい!(3人)

- ・空いた時間でもっとたくさん友だちになりたい。生活とか夢に役立つことを手助けしてもらいながらやりたい。
- ・日本人の友だちがいないのがさみしい。職場の人達は厳しいので仲良くなれない。日本人の友だちと沖縄旅行をしたり、ネパールカレーを食べに行ったりしたい。
- ・日本人の友達を作って、いろいろ教えてもらいたい。

## 外国語を教えたい!(2人)

- ・ベトナム語教室を始めたけれど、時間が取れなくなって2年ほどでやめてしまった。子ども達にベトナム語を教えなかった。
- ・自分ができることをやりながら、プラス、社会のためになることをやりたいと思っている。自分ができることは外国語を教える事。沖縄には無料で安く学べるところがない。英語以外の言語も話せることを求められている社会なので、行政と連携したりして行きたい。

## いろんなところに行きたい!(3人)

- ・那覇以外の色々な地域にも行ってみたい。自分はインターネットでしか情報が得られないので、沖縄の人と一緒に沖縄を回りたい!
- ・去年はコロナでどこへも行けなかったので、色々な所へ行きたい。朝日と夕日を見るのが好き。
- ・沖縄の人とまだ行ってないところと一緒にいきたい。

## 日本語をもっと学びたい!(2人)

- ・もし私に時間ができたら日本語をもっと学びたい。
- ・私は沖縄に長らく住んでいるのに、日本語が上手くないことをとても反省している。今は日本語の勉強を頑張っている。最近漢字の勉強が楽しい。



# 沖縄の人に伝えたい!

## 沖縄の好きなところ

- ・沖縄の人々はとても親切なので、沖縄の人が好き。国際通りに行ったときに英語がとても上手な方が接客してくれてとても助かった。
- ・日本はイスラエルよりもルールをきちんと守ることができる。日本人は罰金などがなくてもルールを守る人が多いので過ごしやすい。
- ・今住んでいる宜野湾が好き。那覇も近いし、NGOセンターがあるから色々なアクティビティに参加できたり、人とつながるきっかけができる。読谷がきれいで好き。伊計島が好き。海がきれいで、シュノーケリングを楽しめる。
- ・近くに綺麗な海がたくさんあること。北部とか自然がたくさんあって、好き。沖縄の人は優しく、ネパール人と似ているので良くしてもらっている。学生時代、日本にきたばかりの頃は学食を吐いてしまったり、食事に苦労したが、今は味噌汁もお茶も慣れた。特別サーターアンダギーがネパールのスイーツに似ていて好き。
- ・沖縄の人は優しいし、少し湿度が高いが、気候も暖かいところがブラジルに似ている。
- ・街がとても整備されていて、生活しやすい。地図を持って歩いてわかりやすい。



## もっとこうしてほしいところ

- ・もう少し英語を話せる人がいたり、外国籍の人への支援があるといいと思う。沖縄の将来的なビジネスのためにも英語に触れる機会を増やしたほうがいい。
- ・環境と基地の問題に向き合って欲しい。
- ・沖縄のIT人材を育成しなければならない。
- ・散歩するときに、畑や海に弁当箱やペットボトルなどのごみが落ちている。ゴミを捨てないで欲しい。
- ・日本人は不満に思うことを声に出さない。戸惑いを躊躇して変化を恐れるし、消極的。出る杭は打たれる。行動に移したら良い社会に向かうと思う。

